

## 戸建て住宅におけるアプローチの評価

國嶋 道子（京都女大短大）

【目的】公共の道路から住宅への空間・門・塀などは、そこに居住している人だけでなく道行く人々に様々な印象を与えると同時に、周囲との関わりが街並みに影響するなど重要な意味をもっている。そこで、戸建て住宅における様々なアプローチがどのように評価されるか、また構成要素の何が評価に影響しているのかを明らかにすることを目的とする。

【方法】京都市下鴨・桂、宇治市、滋賀県草津市、大津市瀬田などを回り、戸建て住宅の様々なアプローチの収集をまず行った。そして、門・塀・垣の素材、デザイン、取り付け道路の形態や素材などにより分類した。代表的なアプローチについてSemantic Differential Methodにより女子大学生37名に評価させた。

【結果】平均SD得点を算出し、各評価対象の特徴を捉え、アプローチの構成要素と評価との関連を検討した。さらに、因子分析を行ったところ、「価値」因子、「フォーマル」因子、「重厚感」因子の3つが析出された。各評価対象の因子得点を算出しアプローチの特徴を因子次元で把握した。第1因子に因子得点の高いものに共通しているのは、生け垣あるいは塀とともに植え込みがあるなど緑が目立つ。第2因子で因子得点の高いものは、取り付け道路が人工素材でグレー系の寒色であり、あまりものを置いていない。第3因子で因子得点の高いものには、アプローチ空間に和の要素を持ち、取り付け道路は平坦で比較的長いもの、門の素材は人工素材で門扉が黒や茶などの明度の低い色のものであった。